

令和3年8月26日

(仮称) 三重松阪蓮ウィンドファーム発電所計画段階環境配慮書に対する意見書

リニューアブル・ジャパン株式会社
代表取締役社長 眞邊 勝仁 様

日本野鳥の会三重
代表 平井 正志 (公印省略)

(公財) 日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一 (公印省略)

現在、貴社が公告・縦覧および住民意見を募集している(仮称)三重松阪蓮ウィンドファーム発電所に係る計画段階環境配慮書(以下、配慮書という)に対して、自然環境保全の観点から下記の通り意見を述べる。

記

●希少猛禽類の生息地

1. イヌワシ

紀伊半島では大台ヶ原山系、奈良県川上村周辺にイヌワシが生息している(新谷 1992)。配慮書 63-64 ページにおいても、事業実施想定区域(以下、計画地という)はイヌワシの生息が確認されている地域であると記載されている。

川上村に接する三重県側では1988年に三峰山付近でイヌワシの生息が確認されている。また、1991年には、計画地近くの池木屋山の北東斜面でイヌワシが観察されている(新谷 1991)。近年は調査が十分でなく、情報はないが、2002年には大台ヶ原山系で繁殖が確認された(新谷 2012)。

イヌワシが国の天然記念物や国内希少野生動植物種および環境省版レッドリストにおいて絶滅危惧IB類(EN)種に指定され、特に本州中西部では生息数が極めて少なく、生息地も限られていることを考慮すると、イヌワシの生息状況について十分な現地調査(繁殖状況によって行動が変わるため、生息状況把握には複数年の調査が必要)を行い、生息が確認された場合は、計画を中止すべきである。米国では多数のイヌワシが風力発電施設(以下、風車と言う)に衝突し死傷するバードストライクが生じていることが知られている(Smallwood and Thelander 2010) ことに加え、国内でも過去にイヌワシのバードストライクが発生していることから(浦 2015)、イヌワシの生息場所に風車を建設すると、バードストライクが生じる可能性が高い。

2. クマタカ

今回の計画地では、国内希少野生動植物種および環境省版レッドリストにおいて絶滅危惧IB類(EN)種に指定されているクマタカが複数つがい生息する(日本野鳥の会三重 2011)。2021年3月にも迷岳付近でクマタカの飛翔を日本野鳥の会三重の会員が確認している。配慮書 63-64 ページにおいても、計画地ではクマタカの生息が確認されている地域であると記載されている。

三重県内ではクマタカが過去にバードストライクに遭った事例があることから(武田 2013)、計画地に風車を建設した場合には、バードストライクが起こる可能性が高いと考えられる。また、風車を忌避して営巣放棄や、繁殖成績が下がる可能性が考えられる。このため、希少猛禽類であるクマタカの保全の観点から、計画を中止するべきである。

●猛禽類の渡りルート

計画地北西側の高見山では、毎年日本野鳥の会奈良支部の会員らにより渡り調査が行われており、2006年から2012年までの調査では毎秋、800羽から1700羽のサシバが渡っている（日本野鳥の会奈良支部）。したがって計画地およびその周辺がサシバ等の希少猛禽類の渡りルートとなっている可能性が高い（日本野鳥の会三重 2011）。また、配慮書 58-63 ページにおいても、計画地および周辺が猛禽類の渡りルートとなっていることが記載されている。計画地周辺には、既に度会ウィンドファームや青山高原ウィンドファームがあり、今回の計画地に風車が建設されることで、紀伊半島を通る渡りのルート全体に影響（累積的影響）が生じると考えられる。バードストライクが発生し、また、障壁影響（Masden et al. 2009, 浦 2015, 財団法人日本野鳥の会 2009）により渡りルートの変更および生息地の放棄といった影響が発生する可能性が高いことから、希少猛禽類の保全の観点からみて計画地に風車を建設すべきではない。

●県立自然公園内への設置

計画地は香肌峡県立自然公園内であり（配慮書 186-188 ページ）、三重県内では比較的自然落葉樹林、二次落葉樹林が多く植生自然度も高い場所が計画地に含まれていて、広く県民が自然を楽しむことができる区域である。また、迷岳は県の内外の登山愛好家に人気のある山である。計画地に風車を建てることは、景観破壊、自然破壊、観光資源の破壊につながるため、風車を建設すべきではない。

以上の観点から、この計画は中止すべきである。

以上

引用文献

- Masden, E. A., Haydon, D. T., Fox, A. D., Furness, R. W., Bullman, R., and Desholm, M. 2009. Barriers to movement: impacts of wind farms on migrating birds. - ICES Journal of Marine Science, 66: 746-753.
- Smallwood, K. S. and Thelander, C. 2010. Bird Mortality in the Altamont Pass Wind Resource Area, California," Journal of Wildlife Management 72(1), 215-223.
- 浦達也. 2015. 風力発電が鳥類に与える影響の国内事例. Strix Vol. 31, 3-30.
- 財団法人日本野鳥の会. 2009. 野鳥保護資料集第 25 集 再生可能エネルギーの利用が生物の多様性に及ぼす影響－鳥類とコウモリ類の事例－. 財団法人日本野鳥の会.
- 新谷保徳. 1991. 紀伊山地にオオワシ、オジロワシの越冬地！！. 日本イヌワシ研究会ニュース, No. 15: 7-8.
- 新谷保徳. 1992. 紀伊山地におけるイヌワシの生息・繁殖状況. Aquila chrysaetos (日本イヌワシ研究会誌), No. 9: 41-46.
- 新谷保徳. 2012. 紀伊山地におけるイヌワシの生息繁殖状況～37年ぶりに繁殖成功を確認～. Aquila chrysaetos (日本イヌワシ研究会誌), No. 23・24: 65-69.
- 日本野鳥の会三重. 2011. しろちどり第 66 号. 日本野鳥の会三重.
- 日本野鳥の会奈良支部. <https://wbsj-nara.jimdofree.com/> (2021年8月19日閲覧)
- 武田恵世. 2013. 風力発電機の鳥類の繁殖期の生息密度への影響. 日本鳥学会誌 62(2): 135-142.